

平成 21 年度第 2 回東京都北区環境審議会議事要旨

日時：平成 21 年 11 月 17 日（火）10：00～11：50

場所：北区役所 第一庁舎 4 階 第一委員会室

【出席者】

<委員>

丸田頼一会長

柳井重人委員

巻出義紘委員

田口重子委員

岸田辰夫委員

中川大一委員

品川明委員

佐藤征子委員

原芳子委員

平田雅夫委員

椿くにじ委員

吉川正人委員

林一恵委員

加藤和宣委員

小池たくみ委員

長尾晴彦委員

<幹事>

亀井裕幸環境課長

鳥居貞則リサイクル清掃課長

佐藤信夫道路公園課長

宮内利通庶務課長

依田園子企画課長

<事務局>

環境課環境推進係

【次第】

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議 事

(1) 緑の基本計画の改定について

(2) その他

4. 閉 会

【傍聴人】

傍聴人 1 名

【発言要旨】

< 議 事 >

(1) 緑の基本計画の改定について

○事務局 — 資料説明 —

○委員 みどりの条例も併せて改正されるか。また、具体的に生物多様を守っていくために、どのような施策の展開をしていくのか。

○事務局 条例そのものの理念は変わらない。具体的な計画レベルでの方向付けをしていきたい。考え方の具体的な部分は、資料1のP62・P63に書いてある。いろいろな野生生物がすみ続けられるような環境づくりを進めていくということが生物多様性の保全、再生の基本的な考えである。

○委員 みどりの条例は変えていく時期を迎えていると思っている。生物多様性を強調するのは歓迎だが、もっと細かく聞きたい。生物を守り続けるには具体的にどんな施策になるのか。目標の中に生物多様性的な指標を示すことができるか。また、社寺など、街で毎日の緑を確保していく上で、親しみをもてる位置付けができないか。

○事務局 生物多様性については、国や都の計画を踏まえる必要がある。ただし、緑の部分がその基盤として重要なので、生息環境としての緑を重視して取り入れている。どのくらいの緑があるとどう野生生物が住めるとかという個別的な話については、生物によって住む環境は大きく違い、不明な点も多く、難しい。今回は在来種を減らさないという視点を目標にしている。

社寺への政策としては、大径木の保護などで樹林の持ち主を支援している。

○委員 北区で調査を行い、植物ガイドブックを発行しているが、植物なども種類が減っているとされる。誰が何を守っていけばよいか。それを具体的にしたほうがわかりやすい。

○事務局 調査から種が増えたかどうかを把握することは難しい。今回の計画は、野生生物が生きていくための環境づくり、ハビタットを重視している。具体的な方法としては、今後、生物多様性に配慮した緑の保全・緑化戦略という具体的な指針を作っていきたい。

○委員 浮間公園の池に魚を放して釣りを楽しんでいる人がいる。そこに、ブラックバス（特定外来種）を入れてしまうことも考えられる。止めるよう罰則規定を設ける記述を加えたらどうか、抑止力につながり保存・保護につながるのではないか。また、前回の議事がどのように生かされていたか明確にして欲しい。景観三法よりも都市緑地法を前にもってくるということについて基本的な部分にどう生かされたかを教えてほしい。

○事務局 壁面緑化や芝生化への取り組み等、個別の提案を取り入れている。区では、景観の法律ができる前に、条例や計画をつくっており、それを踏まえ、それぞれの地域の景観を重視していくということで、まとめたのが1点。上位の都市緑地法の改正について、会長の指摘を踏まえ、既存の状況と制度を点検したが、従来法律ではなかなか対応できていなかった部分についても条例で対応してきた。地区計画については、具体的にどういう場所でどう展開していくか、議論が

見えていないので、記述していない。この部分については、北区で使えるという方向ができれば、入れたい。

○委員 地区計画は前回示した緑の実態調査資料をもとにしてできないか。在来種の保存については、モラル的な意味で、外来種の持ち込みは罰則等を設けられないのか。

○事務局 罰則規定を設けることに対しては、別の議論が必要で、基本計画には入らない。

○委員 緑比率の20%は目標として低い。どういう基準で決めているのか。

○事務局 区内の50㎡以上の緑地の変化は、平成10年から平成20年の10年間で区の施策によって、14.3%から15.7%と、1.4%増えている。よって、とどくところで、1.5%増を目標としている。区だけでなく、民間と手を携えながらやっていきたい。

○委員 可能性があるなら、もう少し目標を高くし、区民の意識を高めていくべき。また、グリーンコンシューマーをいかに育てていくかが環境で重要なテーマになる。教育という視点だけではなく、区民1人1人の意識を持つためにも目標は高く持つことが大事。

○委員 学校ビオトープは大人が与えるみどりでの視点。子どもたちの視点でのみどりの大切さを、教育の現場や勉強の場において教えていくことが重要。

○事務局 資料には区民全体を見据えているため「子ども」という表現をしていない。ただし、子どもをターゲットにしている施策もある。「子ども」という文言を検討していきたい。

○委員 質調査は大きな公園に偏っている。学校内の植生調査は、どれくらい行われているのか。ビオトープ以外にも子どもたちが、植生改善で生物多様性を実感できる視点も大事。緑の質的向上を目的として、生物のモニタリングは必要。たとえば、学校や地域の方が環境リーダーとなり、子ども達と調査したほうが、生物多様性がそれぞれ実感できる。

○委員 みどりのメリットばかりが書かれているが、落葉・枝剪定等の労力・手間のことや、区ができるサポートについて記述があったらいいと思う。公園の清掃をしている人が、区から委託されている人なのか、ボランティアの方なのか区別できない。ボランティアの方が分かると、声がかけやすくなる。また、みどりの協力員制度について教えてほしい。

○事務局 協力員は区のボランティアで緑化の政策に協力し、緑化の普及に努めている人たちで、定員を決めて募集した。

○幹事 公園の清掃は、業者・美化推進委員・シルバー人材センターに頼んでいる。ボランティアの方は難しいが、区が委託している人たちに腕章など、分かりやすい目印をつけることは可能なので検討したい。

○委員 公園で、犬を放し飼いで走らせたり、サイクリングをしている人など、看板があっても守らないモラルの低い人たちがいる。

○幹事 北区の公園では、犬は断っている。だが、犬を走らせたりする場所は要望もあり、必要と考え、一定のルールの下で試行する。自転車については、看板等で注意喚起はしているが、守られていない。モラルの問題が厳しく、なかなか守ってもらえない。今後も粘り強く注意指導

を行って一般の方が利用する際、安心して利用できるように努力していきたい。

○委員 植生の中身がわかるようなベースマップが必要である。環境省が進めている 1/25000 のレベルのものがあれば、どこで何を優先的に行うかわかりやすくなる。モニタリングのサイト選定の材料や、生物多様性・ドッグラン等の判断材料にもなるので、基本計画を進めるための基礎資料作りのような項目があってもよいのでは。

○事務局 委員の意見のレベルでの実態調査は行っていない。方針だけでなく、具体的に対応していきたい。

○委員 現況図はあるが、評価図がない。6つの視点で北区の緑の重要性を捉えて、それを軸に方針をたてるということだが、どれが何に貢献しているかを評価する事で、課題が見えてきて、計画に繋がる。また、施策の体系だけで終わっているが、最終的には、保全及び整備すべき緑地を含めた配置方針図、計画図を作る予定はあるのか。その空間に、他の制度や施策などを適応できるかの方針図、将来像が出てくると良い。マネージメントのサイクルの中で、審議会や区民の位置づけはどうか。

○委員 生物多様性基本法には、環境や生物の構造・実態について調査等の推進、学校・社会教育の推進、施策の総合的、計画的な推進が自治体の責務になっている。緑被率が20年後に1.5%増える計画ではいかがか。量的な拡大は必要であり、国や都にいうことも必要ではないか。都電のレールをグリーンベルト化するよう、都が主導的にやるべき。浮間公園の池にアオコが発生し、水が濁って魚が浮いている。池に酸素を泡で送ることを始めたが、根本的な解決にならない。水再生センターの屋上を畑地や緑地にしたい。管轄は都だが、計画の中にも盛り込んでほしい。

○会長 基本計画の役割として、景観みどり3法の制定を加えてほしい。緑比率は大都市では大事な目標の一つであり、40%以上だと半分以上の人が満足する。できるだけ25%に近づけた数字にしていただきたい。生物多様性は、計画図でエコロジカルネットワークという形で示せる。文言だけでなく、みんなに見えるものとして示せることが大事。景観みどり三法では、景観重要樹木は区によって違いがあるが、本来入れるべきである。みどりが不足している地区において都市計画の地域地区として緑化地域を指定する緑化地域制度（34条）及び緑化重点地区などにおいて建築物の敷地内に緑化施設を整備するものが計画を策定する緑化施設整備計画認定制度（60条）について今後の検討課題として文章に盛り込むべき。緑化配置構想を新たに改定したので、加える必要がある。

（2）その他

○委員 「北区の環境」P18米づくり教室について。記載されていない学校がある。

○事務局 それぞれいろいろな取り組みがある。なるべく多く入れ、整理していきたい。